

喘息・COPDと 関連疾患の重要知識 Up-to-date

咳・痰・息切れなど気道系の症状は、プライマリ・ケアの場できわめて頻繁に遭遇するありふれた問題です。気道系の症状がみられるときには各種の疾患が想定しえますが、そのなかでも喘息と慢性閉塞性肺疾患（COPD）は重要な common disease です。気道系は生活環境中の各種吸入性アレルゲンや病原微生物、喫煙などの有害物質、またそのほかの環境汚染物質に曝露され、常に影響を受けています。喘息ではいわゆるアレルギー体質が基礎に存在するため、短期的には治療が奏効しても、長期的にはしばしば慢性化、時に難治化し、患者を苦しめることとなります。COPD では気道構造の不可逆的変化の要素が大きく、生涯にわたる適切な管理が求められます。実際の臨床の場では、これらの関連疾患の鑑別や対応もきわめて重要なこととなります。

気道症状があるとき、基礎に複数の疾患が併存しうることもきわめて重要です。その代表はよく知られる喘息と COPD の合併です。喘息のわが国における近年の有病率は 10% 近いとも推計されています。わが国の喘息の最も代表的な病因アレルゲンは室塵中のダニですが、ダニ感作例でも例えばアレルギー性鼻炎が発症しているものの、喘息は未発症のまま成人となるケースは日常的に存在します。これらの方々では喫煙習慣が形成されることがありますし、この場合、喫煙の下気道病変へのインパクトは、基礎にアレルギー性気道炎症があるゆえにきわめて大きいと推定されるのです。われわれは患者の既往歴を含む背景因子や環境要因、また生活習慣などにも十分注意する必要がある、これらを踏まえた全人的・包括的な管理を行う視点が大切です。

鑑別診断や難治例への対応を含め、気道疾患への対応にはすべての医家が頭を悩まされた経験をお持ちと思われます。本特集では喘息と COPD のガイドラインを中心

に、気道疾患診療全般の重要領域をカバーさせていただき、広く第一線の先生方の気道系疾患診療の向上にお役に立てるようなプラクティカルな一冊として企画をさせていただきました。喘息・COPDを中心とした気道疾患の診療現場での現実的な問題の解決のため、この分野のトップラインの先生方にご執筆をお願いし、まとめさせていただきましたのもであります。本特集が喘息・COPDなど気道系の疾患に苦しむ患者の救済のため、読者の先生方の診療にぜひともご活用いただけることを期待するものです。



永田 真

(埼玉医科大学呼吸器内科/埼玉医科大学病院アレルギーセンター)